

保育園での子どもの権利保障

「保育の質」を考える。

2011
2月5日
(SATURDAY)
13:00~16:00

参加
無料



少子化・核家族化が進むなか、保育園は保護者が働くための支援だけでなく、「子どもの育ちの場」として一層重要な役割を担っています。子ども・子育てに関する考え方や暮らし方も多様化するなかで、「子どもの最善の利益」を目指して、保育園と保護者、地域、自治体がともに子育て・子育てに取り組むために、「保育の質」とその確保の方策について考えます。

会場 のびすく泉中央 (宮城県仙台市泉区泉中央)

対象 保育・子育て支援関係者、保護者、その他関心のある方

プログラム

時間	内容
13:00~13:20	開会
13:20~14:20	<p>基調講演</p> <p>子どもの豊かな育ちを保障するために～保育園の「質」を考える 保育の家しょうなん (滋賀県大津市) 【園長】 塚本 秀一</p> <p>「保育の家しょうなん」はこう考えています。</p> <p>同一敷地にある湘南学園は、105年目を迎えた児童養護施設です。ここで生活している未就学の子どものうち半数は、「誰か」が「どこか」でちょっと支えることで、児童養護施設に入所しなくても済んだのではないかと思います。「保育の家しょうなん」は、その「どこか」となって、家庭崩壊・母子分離・親の放任・虐待による養護児童を未然に防ぐという役割を持つ保育園でありたいと思っています。</p> <p>また、男女雇用機会均等法が制定されたにもかかわらず、女性が子どもを産んだ後の社会的援助が充分ではなく、今もなお子育てのために仕事を追われるというケースも少なくありません。保育の家は、働くお母さんたちの子育てのお手伝いをすることで、子どもが育つよりよい環境づくりを目指しています。</p> <p>一方、子どもたちにとっては、お父さん・お母さんと一緒に過ごせない時間を、安心して過ごせる「もう一つのおうち」でありたいと思っています。もちろん子どもたちにとっては、無条件に愛し、共に喜び、共に悲しんでくれるお父さん・お母さんとずっと一緒にいるのが一番です。でもいるいるな事情で、子どもたちが親と離れて心細く不安な気持ちになったとき、私たち保育の家の職員は、いつでも側において共感できるおとなでありたいと思っています。</p> <p>このように「保育の家しょうなん」は、いろいろな思いを込めてできた保育園であり、可能な限りここを利用される方々一人ひとりのニーズに応えられるシステムにしたいと考えています。</p>
14:20~14:30	休憩
14:30~16:00	<p>ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保育の家しょうなん (滋賀県大津市) / 【園長】 塚本 秀一 ● なかよし保育園 (宮城県角田市) / 【園長】 藤崎 隆 ● 国見ヶ丘せんだんの杜保育園 (宮城県仙台市) / 【園長】 金野 純恵 ● 大津市福祉子ども部 保育コーディネーター / 尼崎 尚子 ● 保育園を利用している保護者 / 【調整中】 <p>コーディネーター 尚絅学院大学 / 【教授】 石田 一彦</p>

連絡先

特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター (CLC)
〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1階
TEL.022-727-8730 FAX.022-727-8737
E-mail : oizumi@clc-japan.com

託児あり

FAX申し込み書 参加ご希望の方は、下記に内容をご記入のうえ【FAX番号 022-727-8737】まで送信ください。

氏名	所属	役職
住所		
TEL	FAX	
E-MAIL	託児	有 ・ 無 (才 ヶ月)